

第2回地域防災力向上チャレンジ 企画提案書

ぼうさいGO!

明石工業高等専門学校(D-PRO135°ゲーム開発班)

概要	対象地域	兵庫県明石市魚住町魚住小学校区
	対象とする地域の課題	自宅周辺の土地勘がない住民が増えるなど、地域空間と社会関係空間の乖離が進んでいる。その地域に住宅がある住民による地域コミュニティでの防災には限界あり、地域に“暮らす”多様な個人/コミュニティが一体となった取り組みが求められている。
	チャレンジしたいアイデア	D-PRO135°では、これまでに、遊びながら地震への備えや共助の意識を学べる独自のボードゲーム(RESQ)を開発し、小学生から高齢者までが一緒になり楽しく防災を学ぶ支援を行ってきた。また、地域に“暮らす”一主体として、明石高専の立地する地域にある魚住小学校区でのまちづくり・防災活動に取り組む「共助de17」チームの活動にも参加している。活動を続ける中で、自分たちを含め地域のことをよく知らない人が増えていることに気がついた。明石高専に通学しているが通学路以外の場所のことはよく知らず、通学先で災害にあったとしたらどこに避難すべきなのか、避難所で生活はできるのかといった問題についても考えるようになった。 本企画では、スマートフォンなどの位置情報を利用したゲームを開発する。実際に自分たちが暮らすまちを「あるく」ことを通して、災害の危険性、災害への地域の備えに加え、地域の魅力を発見・共有(投稿)する体験、投稿された地点を巡ることを通じて、まちのことを知る体験ができる。地図上では地域の境は存在しているが、現実では境を超えて地域はつながっており、そのつながりや広がり認識するとともに、同じ地域で暮らす多様な個人/コミュニティを、ゲームを利用したウォーキングでゆるくつなげていくことで、災害時にも助け合うことのできる新たな地域コミュニティの形成に挑戦する。

1 アイデアの概要

■ いま、まちをあるこう

あるくこと(五感)でまちの魅力を再発見！！
地域のネガティブ(災害への危険性)だけでなく、
地域のポジティブ(備え、魅力)を見つけよう



■ まちあるきを促す ゲーム の提案

ポケモンGO、ドラゴンクエストウォーク など位置情報ゲームはあるが、

まちはひとつじゃない その多様な価値観を理解する

発見 → 共有 (投稿機能)

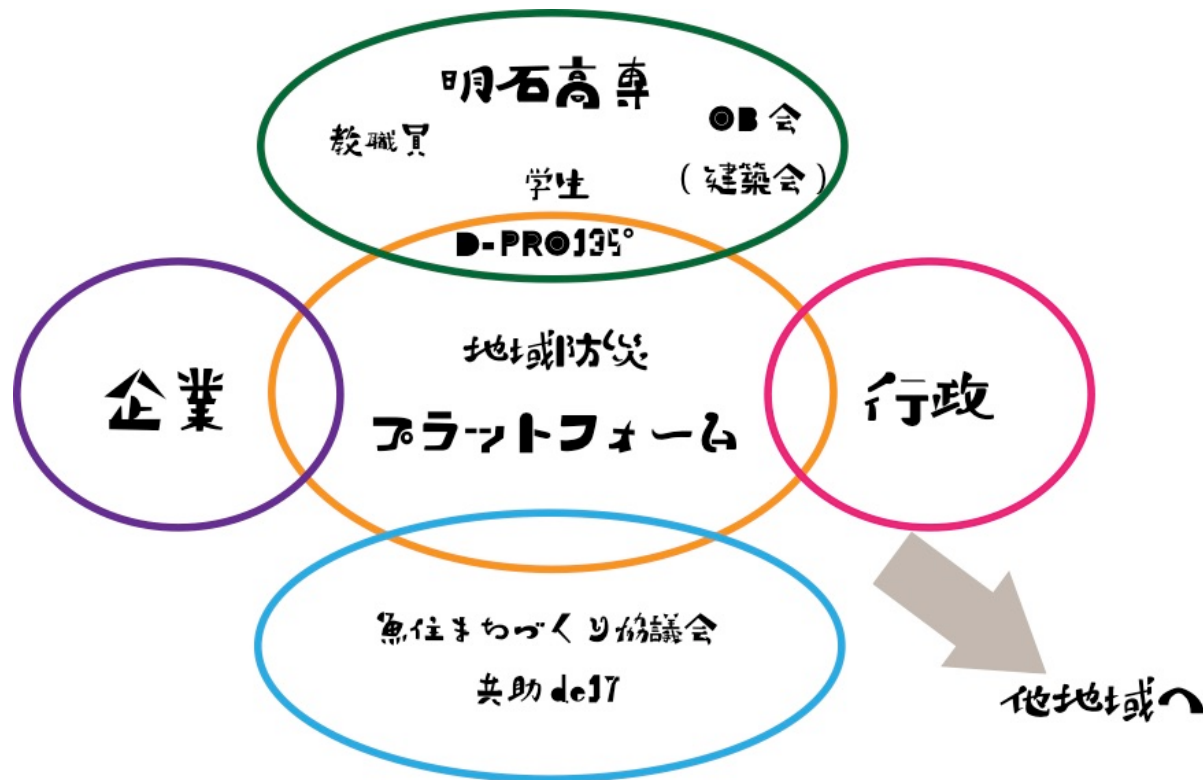
共有 → 共感 (投稿された地点を巡る)

「発見ポイント」、「共感ポイント」、「巡ったポイント」を競う

自治会域、校区といった決められた空間の広がりだけを意識せず、
それらをゆるく超えた**自らの暮らす地域発見型の位置情報ゲーム**の提案

1 アイデアの概要

■ 暮らしている地域の複層型防災コミュニティの形成



住んでいる住民だけでなく、地域で活動する企業、立地する教育機関、行政などが連携できる地域防災プラットフォームを構築

→ 活動するエリアが完全に一致せずとも、その重なりを活かした共同の形

2 取り組む理由

■ 地域空間と社会関係空間の乖離

住んでいる場所≡働いている場所

→ 地域まちづくり・防災主体としての自治会が機能

住んでいる場所≠働いている場所

→ 地域まちづくり・防災主体としての自治会は機能しない

■ 暮らし方の変化

自宅周辺を歩く機会が少ない → 近所のことを知らない

カーナビへの依存 → 道を覚えない

多様なコミュニティ → 活動エリアが一致しない

→ 地域まちづくり・防災を考えるには、
住宅がある住民による地域コミュニティでは限界

“住んでいる”だけの地域には魅力を感じない



2 期待される効果

■ 地域防災マップの 作って終わりにになりがち 課題の解決

様々な主体が同じ地域の防災マップを作成

→ 作成して終わるのではなく、情報を統合・共有

ゲーム内で積極的に情報を活用し、実際に足を運ぶことにつなげる

隣接エリアの課題

→ 作成主体の活動エリアに限定される

特定の境界を意識せずにシームレスな地図での検討

いざというときに本当に利用可能なものに

→ 紙媒体だといざというときまでの保存に難点が
情報として提供することで持ち運びが容易に
気づいた人が情報を更新していくことも可能



2 期待される効果

■ 教育機関での防災士養成講座のその先の提案

実際に地域活動に参加することで、教科書では学べない地域活動の実態を経験し、自ら考え、学んだ知識を活かして動けるように

地域の中にある明石高専を地域にも認識してもらうことで、災害時だけでなく平時からの活動の協力や支援関係を構築し、災害時要援護者のサポートなどにおいて活動できるアクターとしての高専生の役割を見つける

持続可能なまちづくり活動と次世代の技術者育成を
結びつけた“まち教育”に

3 アピールポイント

■協働活動経験

明石高専独自のCo+work(学科学年横断チームによる課題解決型授業)による協働活動の実績と経験

■サポート体制

研究者だけでなく実務経験者も多い教職員・技術職員による技術面でのサポート
地域企業やOB/OGとの連携による支援も充実

■海外からの短期・長期留学生の存在

明石高専：留学生が日本の地域防災を学ぶ・触れる機会に、留学生の安心にもつながる
地域：海外の人と一緒に（防災）活動することができる



3 アピールポイント

■ 対象地域との協力関係

- ・ 毎月開催されるまちづくり協議会への学生参加
- ・ 避難所運営訓練への協力

台湾からの留学生が避難訓練に参加

コミュニケーション支援ボード使用を体験

地域：

実際にコミュニケーション支援ボードが避難所運営において住民でも利用可能かを検証できた

明石高専：

地域の避難訓練に実際に参加するプログラムは、貴重な機会であると大好評



会議時の記録係を担当



コミュニケーション支援ボード体験